

＝ 市史編さん便り＝ 【49号】 令和5年11月13日(月)発行

\*\*\*\*\*土佐清水市教育委員会・市史編さん室

## 「大津地区の古文書目録 刊行記念シンポジウム」

11月11日(土)13時30分～16時、土佐清水市中央公民館3階多目的ホールにて「大津地区の古文書目録刊行記念シンポジウム」が開催されました。主催は高知地域資料ネットワーク(代表 小幡尚 高知大学教授)、高知県歴史文化財課県史編さん室、土佐清水市教育委員会、土佐清水市郷土史同好会が共催。

シンポジウムでは、土佐清水市教育委員会岡崎教育長、高知県歴史文化財課県史編さん室山崎室長が祝辞を述べ、シンポジウム開催の意義について述べた。発表は、冒頭に大津地区の古文書「上岡家文書」を読み下し、翻刻を行った研究リーダーである高知地域資料ネットワークの望月良親副代表(高知大学講師)が、「地域に残る歴史資料と土佐清水」と題し、地域に残る古文書や学校資料の重要性、高知地域資料ネットワークの活動、地域と協働で散逸する資料を保存していった土佐清水市での取り組みについて紹介し、基調発表した。このような土佐清水市での取り組み、いわゆる「土佐清水モデル」を広げていくことが重要。

発表は、前半・後半に分けられ、前半は高知新聞社福田仁記者・高知城歴史博物館水松学芸員、後半は土佐清水市教育委員会生涯学習課市史編さん室田村・高知県歴史文化財課県史編さん室大城主事の発表があった。



↑シンポジウムの祝辞を述べる土佐清水市教育委員会・岡崎哲也教育長。



↑左:祝辞を述べる山崎県史編さん室長、右:高知大学望月講師。

少子高齢化に伴う学校の休校、地域の伝統芸能行事の消滅、古民家解体等における歴史資料の消失等々、地域に残る貴重な資料や伝統芸能自体の存在が忘れ去られようとしている。このような時だからこそ、この土佐清水市で行った歴史資料の保存の流れを「土佐清水モデル」として全県に広げていく必要があるように思う。市民・関係者等、約60人がこのシンポジウムに参加した。



↑左:水松高知城歴史博物館学芸員、右:土佐清水市教育委員会田村。



#### ←シンポジウムでの一コマ

当日、大津小学校最後の校長を勤められた上岡忠紀先生が、奥様とともにシンポジウムにご来場くださいました。

左・奥様、楠瀬記者(高知新聞)、忠紀先生、目良(県史編さん室チーフ)、撮影しているのは福田記者(高知新聞)。大津小学校資料は中浜小に保管されている。